東京医科大学茨城医療センター
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY IBARAKI MEDICAL CENTER

診療科長に聴く 乳腺科編 Vol.03

海瀬（カイセ） 博史（ヒロシ）

乳腺科　診療科長

日本外科学会専門医・日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医
日本乳癌学会（評議員）
第 11 回日本乳癌学会関東地方会　会長　2015.12.

本日は、乳腺科の診療科長である海瀬博史講師にお話を伺います。

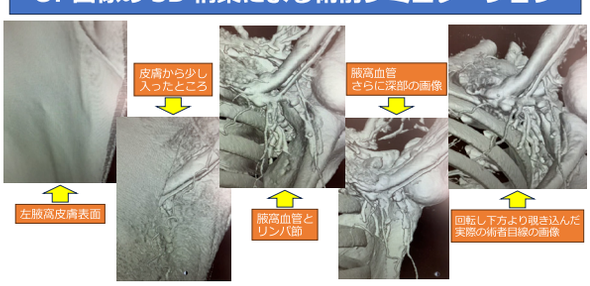
Q：乳腺科は、どのような疾患を対象にしていますでしょうか？
A：乳腺疾患全般を対象としています。
主に、乳がんが対象となります。（原発性乳がん・再発乳がん）、良性腫瘍・炎症性疾患など乳腺疾患は全て対象です。

Q：海瀬博史先生は、乳がんの手術で特別な工夫をしていると聞きますが、先生が工夫している手術はどのようなものでしょうか？
A：手術に対しては強いこだわりを持って臨んでいます。約 30 年に渡り乳がん治療に携わって来ましたので、1880 年代から 1980 年代迄続いた Halsted の手術から、その後の胸筋温存手術→乳房温存手術→センチネルリンパ節生検→人工物再建の保険適応と、乳がん治療の変遷の全てを目の当たりにして来ました。その中での積み重ねが現在に生かされ、さらに現在も進化しています。

手術に当たり私が大切にしていることは
＃1）正確な切除（術前の画像診断をもとに正確な手術計画とその実行）
＃2）きれいな手術（手術中の手術野もきれい。出血は限りなく無くす。手術後の乳房のかたちと傷を可能な限りきれいにする。）

以上を実践し、若手医師への教育・指導も行っています。
また、術前には、画像解析ソフトを使って、手術シミュレーションを行い、万全の態勢で手術に臨んでいます。

CT 画像の 3D 構築による術前シミュレーション



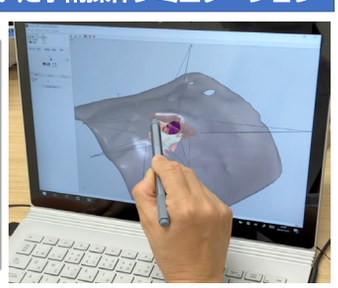
タッチペンをメスに見立てて　実際の手術操作を行い
一人一人違う患者さんの体に応じて最適なアプローチを確認します

3次元解析ソフトを用いた手術操作シミュレーション

～執刀医は、術前に手術操作を事前確認します～

1）PC 画面上でタッチペン操作が可能。より実際の手術操作に近い感触が得られる。

2）タブレット型末端でも使用可能な為、利便性も高い。



CT 画像を用いて　手術患者様の3次元画像を作って
術前に手術操作のシミュレーションを行います

（裏面に続く）

聴き手
菅原信二（スガハラ シンジ）
放射線科　教授
・放射線学会
　放射線治療専門医
・放射線腫瘍学会 認定医
・当院広報委員長

東京医科大学茨城医療センター
〒300-0395　茨城県稲敷郡阿見町中央 3-20-1 / TEL 029-887-1161

各診療科外来担当医につきましては、当院ホームページをご確認下さい。
https://ksm.tokyo-med.ac.jp/

紹介患者・医療連携については、総合相談支援センター　医療連携まで

（表面から続く）

Q：乳腺科は、手術以外にも、乳房の病気の診断、乳がんの薬物療法など様々診療を行っていると思いますが、診療内容について教えてください？

A：診断：乳がん検診（一次・二次）
乳がん確定診断のためのMMG（マンモグラフィー）・US（エコー）・MRI・CT・針生検などの各種検査を行います。

治療：術前術後の薬物療法（内分泌療法・化学療法・分子標的治療・免疫チェックポイント阻害薬）、放射線治療（放射線科に依頼）、緩和治療（緩和科にも依頼）、終末期医療の介入（在宅ケア・ホスピスなど）といった乳がん治療のほぼ全てに対応しております。

遺伝子診断：乳がんにはBRCA1/2という遺伝子に関する診断が保険適応となっていて、適応する患者さんには検査を行っています。＜遺伝関連＞と＜治療薬決定＞の2つに適応します。

Q：乳腺科のスタッフや得意分野について教えてください？

A：乳腺科医師は常勤2名体制で、診療を行っています。看護師では、乳がん看護認定看護師（川村伸代NS）が外来専属で勤務しています。特に、認定看護師の存在は患者さんやご家族の方に正しい情報を伝えるとともに不安を解決するアドバイスも出来る為大きな戦力です。

Q：大学病院の乳腺科として、行っている研究活動にはどのようなものありますか？

A：主に多施設臨床試験に参加しています。臨床試験とは実際の治療現場で前向きに新しい治療法を開発したり、治療効果や副作用の調査を行う試験、市販後薬剤の後ろ向き研究といって実際の使用状況・副作用や治療効果をカルテベースで調査する試験などです。
多施設臨床試験には、新規薬剤の最終臨床試験も行われます（治験と呼ばれます）が、こちらは東京医科大学病院（西新宿）や筑波大学・国立がんセンターなどへの紹介を行います。

Q：乳腺科として、患者さんを診る上で診療のポリシーとしているものは、何でしょうか？

A：＜Patient First＞という言葉が有りますが、まずはひとりひとりの患者さんを大切にして診療にあたっています。患者さんの病状・家族背景・社会的背景は全て違いますので一律の診療では有りません。治療方針は診療ガイドラインを中心に決定しますが、総合的に十分配慮して個々に合った治療を提供することを心掛けています。

Q：受診する患者さまに一言お願いします。

A：乳がんは現在日本国内で全女性の9人に1人が罹患する病気です。がんと聞くと怖いイメージが有ると思いますが、全乳がん患者の最新10年生存率は83%と非常に良好な結果です。特にステージ1の場合は99%と＜治る病気＞と考えて下さい。
そのためには検診による早期発見や乳房の腫瘤を自覚した場合は積極的に乳腺専門の外来を受診して下さい。特に40歳から70歳にかけては好発年齢であり、子育てや親の介護・社会では活躍する年代でありますので、自分だけでなく家族・仲間を守るという意識で向かい合っていただきたいと思います。